千

一年　画数 3　筆順 一 二 千　オン セン　クン ち

成り立ち

むかしは、ひとのかたちをかいて、それで、「百（1年72）の十ばいのかず」をあらわしました。

〝千〟は、人のかたち（イ）に〝一〟をくわえて「一せん（〝せん〟が一こ）」といういみでつくられた字です。だから、〝二せん〟は〝千〟とかき、〝三ぜん〟は〝千〟とかきました。今は、〝二千〟〝三千〟とかきます。

おおいかずのたんいなので、「ひじょうにかずがおおい」ことをあらわすのにつかいます。

わが国では、〝ち〟ということばで、これをあらわしました。

使い方

▽千人力の力もちだからとてもかないません。

▽一日千秋のおもいでたいいんの日をまちました。

▽にわの千草もむしのねもかれてさびしくなりにけり。

熟語例

▽千人力（ひとりで千人の力をあわせたほどの力をもっているひと、ということで、たいへんな力もちのことをいうことばです。）

▽一日千秋の思い（まちどおしくて、一日が千ねんにもかんじられること。秋は一ねんに一どしかないので、〝とし（ねん）〟のいみ）

▽千万人といえども吾往かん（じぶんがただしいとじんじたことはどんなにはんたいするひとがおおくてもすすんでいく、といういみ）

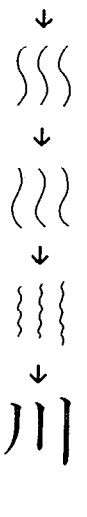
▽千里の道も一歩より（千里＝やく四千キロメートル＝というながいみちのりもひとあしからはじまる、ということで、「おおきなしごともちいさなしごとのつみかさねでできる。ちいさなどりょくをばかにしてはいけない」といういみ）

▽千草（いろいろな草）

川

一年　画数 3　筆順 丿 川 川　オン セン　クン かわ

成り立ち



〝かわ〟のみずがながれているすがたをあらわしたもので、〝かわ〟といういみの字です。

〝かわ〟をあらわした字に、〝河〟という字もありますが、〝川〟よりも〝おおきいかわ〟〝ながいかわ〟につかうのがふつうです。

それで、おおきいかわ、ちいさいかわ、いろいろなかわをあわせて〝河川〟といいます。

使い方

▽ここは〝谷川〟ですが、このすぐ〝川下〟は、〝川はば〟がひろく、ながれもしずかで、ひろい〝川原〟もあって、こどもたちのよいあそびばがあります。

熟語例

▽谷川（谷間をながれる川。川はばがせまく、ながれがはやい）

▽川下（川のながれていくほう。〝下流〟ともいいます。㊀「川上」）

▽川原（川の水がなくて砂原になっているところ。〝川・原〟がちぢまったことばです。〝河原〟というかきかたもあります。）

▽川辺（川のほとり。〝川端〟〝川縁〟〝川っ縁〟などのいいかたもあります。）

▽川面（〝川の面〟。川の表面。川のながれの表面。〝川面〟というういいかたもあります。）

▽川口（川が〝うみ〟や〝みずうみ〟にながれこむところ。〝川の出口〟というういみ）

▽山川草木（山や川や草や木。〝しぜんのけしき〟をいうことば）